ステップバイステップ方式を用いたSSTと作業療法場面を併用した対象者との関わり

医療法人社団　五稜会病院
○矢崎秀幸　齊藤恭央
山北豊　　中島公博

病院概要

- 札幌市北区に位置する単科精神科病院
- 病床数：193床
- 精神科急性期治療病棟　　48床
  ストレスケア・思春期病棟　48床
  精神科療養病棟　　48床・49床
- 附属施設
  デイケア・共同住居・グループホーム

http://goryokai.com/

はじめに

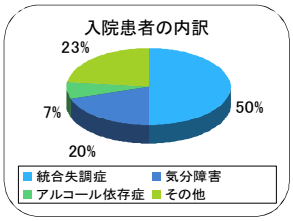
- 当院の精神科急性期病棟では、作業療法士と看護師が協同し入院早期の段階からリハビリテーションを行っている。今回、ステップバイステップ方式[1)]を用いた対人交流技能を高めるSSTを立ち上げ、SSTの場面と作業療法の場面を併用したプログラム実施について報告する。

急性期病棟

・主疾患・・・統合失調症・気分障害
　アルコール依存症
・精神科急性期症状・・・陽性症状・強い興奮・混乱
・ストレスに対し脆弱

・対人交流のストレスがきっかけでの行動化や症状の悪化が見られる

→ **病棟内で問題となる**



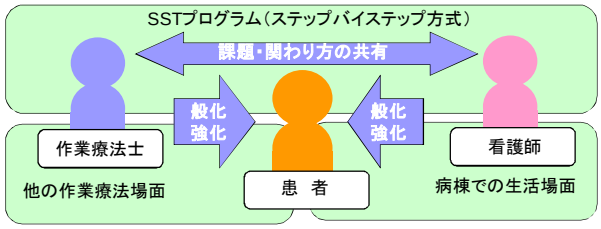
1）引用：『わかりやすいSSTステップガイド』星和書店
著 A・S・ペラック ら
監訳 熊谷直樹　天笠崇

プログラム立ち上げの背景

これまで『作業療法＝作業療法士』、『生活指導＝看護師』という基盤があり、患者に対してスタッフが同じ目的を持っていても、別個に関わりを取っていたため、様々な場面でスキルを学ぶきっかけはあっても、般化や強化が効果的に行われていなかった

↓

作業療法士と看護師が同時に関わるSSTプログラム立ち上げ



より効果的に学んだスキルを般化・強化できる環境を作る

ステップバイステップ方式を用いた理由

患者によく見られる特徴

- 新しい環境に対する脆弱性
- ストレス下において複雑な課題に注意を向けることが困難
- 推論や問題解決能力の低下
- 情報をすばやく処理できない

ステップバイステップ方式の特徴

- 事前に全体のプログラムが決まっている
- 毎回学ぶスキルが明確に提示できる
- 学ぶスキルはいくつかのステップに分けられ、一つずつ説明をすることができる

- より簡潔・明確な方法が重要な環境において、ステップバイステップ方式での学習が有効と考えた

ステップバイステッププログラムの内容

この部分がステップバイステップ方式の特徴

スキルを学ぶ意義を説明
↓
スキルのステップを解説
↓
モデリングと振り返り
↓
各メンバーのロールプレイ
↓
正のフィードバック
修正のフィードバック
↓
追加のロールプレイ
↓
まとめ・宿題の設定

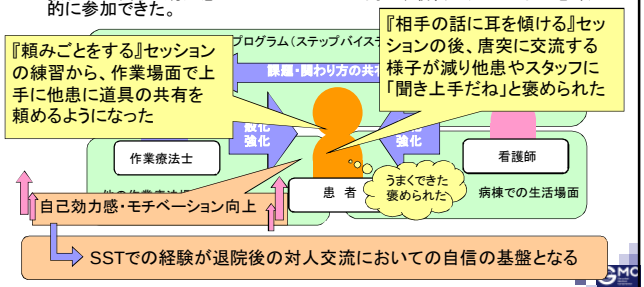
現在取り入れているテーマ
①相手をほめる
　ほめ言葉を受け入れる
②相手の話に耳を傾ける
③頼みごとをする
④頼みごとを断る
⑤頼みごとを断られた時に
　折り合いをつける
⑥日常生活での問題を解決する

＋

その他の作業療法場面で積極的に般化や強化を取り入れた関わりを実施

症例

- 症例A（20代男性・統合失調症、これまで対人交流技能に関するSSTへの参加経験無し。対人交流に苦手意識、集団に対する不安緊張あり・スキルアップへの意欲はある）は、これまで唐突な交流や干渉的な態度からしばしば対人交流でトラブルを生じていたが、SSTを通じ基本的なスキルを学ぶことで唐突な交流が減少。また他の作業療法場面での般化と強化により自己効力感やモチベーションが向上、最終セッションまで意欲的に参加できた。



考察とまとめ

- SSTと作業療法・病棟生活等の各場面で共通性のある関わりができるようになったことにより、患者にとっての様々なコミュニケーションに関する出来事が『課題の練習・実践』という形で捉えられ、ストレッサーとなる（時に不調・行動化となる）ような場面が練習の場として肯定的に受け入れられるよう変化した
- SSTの場面と作業療法場面で継続的に関われるスタッフがいること、般化・強化がより容易に行える環境が患者の自己効力感・モチベーションを高めることにつながった
- 精神科急性期病棟においてもSSTは有効であるが、般化や強化を効果的に行うための環境調整が重要となる